

(3)モデル事業の実施前後の分娩状況等の主な変化

①モデル事業の登録施設数及び総分娩数の推移

	オープン・ セミオープン 病院	オープンシステム				セミオープンシステム				
		登録診療所		登録助産所		登録診療所		登録助産所		
		施設 数	総分 娩数	施設 数	総分 娩数	施設 数	総分 娩数	施設 数	総分 娩数	
実施前:H17年度	0	0	0	0	—	—	0	0	—	0
事業 後	H17年度
	H18年度	1	300	0	0	—	—	0	0	—
	H19年度	1	300	16	0	—	—	16	11	—

②オープンシステムを利用した分娩数

	登録診療所医師 が立ち会った 分娩数(①)	登録助産所助産師 が立ち会った 分娩数(②)	オープンシステムに よる分娩数の計 (①+②)
実施前:H17年度	—	—	—
事業 後	H17年度	—	—
	H18年度	0	0
	H19年度	0	0

③セミオープンシステムを利用した分娩数

	登録診療所からの紹 介による分娩数(①)	登録助産所からの紹 介による分娩数(②)	セミオープンシステ ムによる分娩数の計 (①+②)
実施前:H17年度	—	—	—
事業 後	H17年度	—	—
	H18年度	0	0
	H19年度	11	—

④オープン・セミオープン病院からの診療所・助産所への逆紹介件数

		病院から診療所への逆紹介件数	病院から助産所への逆紹介件数
実施前：H17年度		—	—
事業後	H17年度	—	—
	H18年度	0	0
	H19年度	1	0

⑤その他

地方型オープンシステムは診療所でのローリスク分娩とオープン病院でのハイリスク分娩の機能分担が円滑に行えるか否かが重要となる。三重県においてはオープンシステムへの理解が医療従事者だけでなく患者さんにも、まだ十分ではなく、システムが有効に活用されていない。また、1箇所の病院のオープン化だけでは三重県全体をカバーできないので、地域ごとに基幹病院をオープン化する必要がある。

(4)本事業を実施する上で工夫した点

工夫した点	背景 (工夫に至った理由・目的等)	工夫した内容 (対象・資源・実施者等)
○県全域をシステム参加対象とした点	○モデル地域の医療圏以外の医師が、不利益を生じないようにするため。	○システムへの理解参加を促すため、県医師会、県産婦人科医会への説明会開催
○オープンシステムの広報	○県民に対しオープンシステムのしくみを説明し理解を得るため。	地域の子育て情報発信雑誌、三重大広報、県政だより、ホームページ等への掲載、インターネットマガジンへの掲載
○「開放型病院共同指導料」の算定	○収入確保のため	○三重大学医学部附属病院で社会保険事務局へ届け出 ○二次医療圏内の産婦人科医師の理解とシステム参加への協力
○分娩手当支給(H19.4～)	○産科オープン病院医師の業務負担が増大するため	○分娩料を、12万円から24万円に改定 ○分娩業務に応じ金額を設定
○共通診療所ノートの作成(H19春頃～)	○詳細な健診内容を、登録医師と産科オープン病院医師の共有化をはかるため。	○三重大学医学部附属病院にて作成
○医療審議会周産期医療部会との連携	○県のモデル事業として実施するにあたって、医療審議会の審議が必要なため。	○県医師会、県産婦人科医会、周産期母子医療センター、県看護協会、助産師会三重県支部